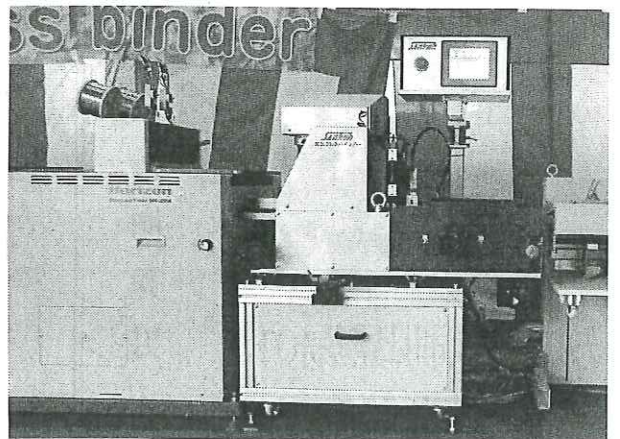


三 針金不要歯型綴じ エコプレスバイ ホリゾン機

中綴じが 針金/エコ 既存設備にも後



スタッカー(ST-40、右側)と針金綴じ(S)の間に連結されたエコプレスバイ

を付する。歯型による加圧のみで綴じる究極のエコ製本機「エコプレスバインダー」の新型機「SYT-500」の発表会が10月6日、製造元の三光(浅村奉真社長、石川県河北郡)の本社工場で開かれた。

実演に先立ってあいさつした浅村社長は「2年前に中綴じインラインタイプとカレンダー専用タイプを発表したエコプレスバインダーは、徐々に市場で認知されつつあるが、まだまだ稼働台数は



スム

ことになった。価格も求めやすく、1台で通常の針金綴じもエコ綴じもこなせるスーパーマシンとして活用していただける」と確信している。と新型のエコプレスバインダーに寄せる期待感を示した。

光 ↓針金綴じ・折り(SPF-200Aホリゾン) ↓小口断裁(FC-200Aホリゾン) ↓デリバリ部(SCI-200ホリゾン)となっており、多様なワークが切替スイッチやタッチパネル上で設定できる。具体的には、①丁合のみでカウンタとして排出、②丁合十折りでカウンタとして排出、③丁合十針金綴じでカウンタとして排出、④丁合十針金綴じ十折り十小口断裁でカウンタとして排出

モリカワ VOC処理で新事業 装置をレンタル コスト負担減

環境関連装置のモリカワ(森川潔社長、本社・東京都豊島区)は、「分離移動型VOC吸着リサイクルシステム」を開発した。VOC(揮発性有機化合物)処理装置を印刷会社向けにレンタルし回収することで、印刷会社のVOC処理コストを大きく削減することができ

2013年から関東地区でレンタル事業を開始。同社が新たに開始するレンタル事業は、分離移動が可能な活性炭吸着塔を用いる。

この方式は印刷工場求められる中風量(毎分50~100立方分)に適しており、大企業はもちろんで、中小印刷業界で利用できる。

吸着塔はドラム缶サイズのユニット型で移動が楽なうえ、モリカワ独自の技術による吸着効率の良さから1週間に1回程度の交換で済む。吸着性能をセンサーで監視することで交換時期を自動的に判別できる。

従来、印刷会社はVOC処理装置の導入に200万円程度の費用が必要だったが、レンタル方式のため初期費用をゼロに抑えられる。毎月のリース料のみで、保守管理や燃料代の費用負担、手間からも解放される。「分離移動型VOCリサイクルシステム」は、

モリカワの嶋田毅プロジェクターは「この新しいビジネスモデルが日本のインフラとなることを目指したい」と話す。

関東経済産業局から新連携支援事業に認定されている。

東洋インキ 広演色でノンVOC カレイドシリーズに新製品

東洋インキは、ノンVOC対応広演色オフセット枚葉インキとして、「OYO KING NEX NV100 カレイド」を発表した。10月下旬に発売する。

カレイドシリーズはプロセス4色印刷機で6色ロゼス4色印刷機で6色構成成分中の高沸点石油系溶剤を1%未満に抑える。7色印刷に近い、広い色再現ができるインキとして好評を得ている。またTOYO KING NEX NV100シリーズはノンVOCインキとして、植物油等への置き換えにより、構成成分中の高沸点石油系溶剤を1%未満に抑える。一般的な植物油インキをさらに進化させた環境調和型オフセットインキ。新製品はカレイドシリーズで、ノンVOC対応により環境負荷低減を実現した。

①既存4色機で広演色印刷を実現、②アドビRGBに近い再現域をカバー、③ノンVOC対応により環境負荷低減に貢献、などの特長を持っている。

ホリゾン新商品発表会 03.5.16日 新テクノ本社

Stitchliner6000 (菊判全判・全自動紙折機) フラッシュファイバー

IJP 売

